

第 3 1 回 吹田市立図書館協議会（会議録要録）

平成 23 年（2011 年）2 月 10 日（木）

午後 2 時～4 時

吹田市立子育て青少年拠点

夢つながり未来館 4 階多目的室

出席者

委 員）坂本委員、末岡委員、黒田委員、正置委員、藤井委員、渡邊委員、太田委員、篠田委員、三浦委員

事務局）竹村中央図書館長、宮林参事、竹村参事、西尾参事、金森千里図書館長、宮東山田図書館長、伊賀野さんくす図書館長、櫻井江坂図書館長、長島千里山・佐井寺（ちさと）図書館長

傍聴者：2 名

第 3 1 回 図書館協議会次第

1 役員選出

2 報告事項

- (1) 千里山・佐井寺図書館の窓口業務委託の状況について
- (2) 吹田市と豊中市との広域利用について
- (3) 北千里分室の拡充について
- (4) 吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館山田駅前図書館の経過報告について
- (5) 千里図書館の建替の経過報告について
- (6) （仮称）千里丘図書館の経過報告について

3 今後の図書館施設整備やサービス展開の方向性について.

4 その他

1 役員選出 …略…

議 長）ただ今から第 31 回吹田市立図書館協議会を開催いたします。よろしく願いいたします。

事務局にお尋ねいたしますが、傍聴希望の方はおられますか。

事務局）2 名の申し込みがあります。

議 長）傍聴規定に基づき入室してもらってよろしいでしょうか。

委 員）異議なし。

議 長）入室を許可します。

議 長）それでは、会議次第に従って議事を進行していきたいと存じます。事務局より説

明をお願いします。

事務局)《初めに、出席状況の報告と配布資料の確認》

2 報告事項

(1) 千里山・佐井寺図書館の業務委託の状況報告について

事務局) 昨年 12 月 1 日から図書館流通センターにカウンター業務の一部業務委託を開始しました。委託社員の体制はチーフ 1 名、サブチーフ 2 名、全 15 名と把握しております。土日繁忙・夜間は 9 人体制、月・水は 7～8 人。受託社員にはチーフ・サブチーフを含めて当館でのアルバイト経験のある方がおられ、意思疎通はスムーズに行なわれています。現場実習は 11 月末の 2 週間程度しかなく、開館当初の混乱を心配しましたが、スムーズな開始になったと思います。不慣れなため、細かい部分でのミスがありましたが、その都度、チーフに伝え委託社員に周知しています。週 1 回、チーフとの会議で意思の疎通を行なうとともに、月 1 回受託会社のエリアマネージャーとも会議をしています。委託社員の利用者対応・電話対応は、職員から見ても適正できちんとしています。現在のところ、利用者数など特に目立った変化はございません。現状の問題点としては、委託社員から市職員へのレファレンスの引継ぎがスムーズにいかない部分があるので、今後受託会社と相談して改善していきたいと考えています。

委員) 運用開始にあたり、心配な点もあったように聞くが、運営し始めてから一般利用者とのトラブルはなかったか。

事務局) 障がい者サービスの録音図書の貸出について、受託社員の対応の不慣れから、利用者からの電話をたらいまわしにしてしまい、時間がかかってしまったという事例はあったが、その後作業マニュアルを再度周知徹底し改善しました。それ以外には、カウンター等でのトラブルは発生していません。

(2) 吹田市と豊中市との図書館広域利用について

事務局) 今月、協定書と覚書を交わし、4 月に広報を行い 5 月 1 日から施行を開始します。吹田市としては初めての広域利用システムの運用になりますが、当面は特定館 3 館ずつで実施しながら課題の洗い出しと解決を図りたいと考えています。試行実施館は別紙のとおり吹田市が「千里、千里山・佐井寺、江坂」の 3 館と、豊中が「千里、東豊中、高川」の 3 館です。市域境界線を挟んで近いところを、蔵書冊数や貸出冊数を考慮しながら、両市の負担が応分になるように選びました。貸出カードは広域利用専用のカードを使用します。試行期間中の状況を見ながら、実施館の拡大も含めて本格実施につなげていきたいと、考えています。

委員) 3 館ずつということで、中央図書館が外れているが、館数を合わせたということか。

事務局) 貸出冊数などのバランスを考えて、3館ずつとさせていただいております。

具体的に言いますと、豊中市民は吹田の中央図書館は利用できないということです。3館の内のどこかに行ってもら必要があります。

委員) この3館で登録すると、インターネットでの検索やレファレンスはできるか。

事務局) レファレンスやインターネット上での検索は、従来からどなたでもできます。

ただし、お互いに他市への予約はできないことになっています。

副議長) 貸出返却は3館であればどこでも可能ですか。

事務局) 広域利用実施館の3館であれば、どこでも可能です。

副議長) 吹田市民の豊中図書館への利用は、千里中央に集中しそうだが、北千里の方の動線では千里中央に行く人が多いのではないか。

事務局) 吹田市民としては、千里中央に行きたいという要望が多いと思われま。

副議長) 冊数や規模からいうと、利用は両市同じ位になるのか。

事務局) 豊中市と箕面市との実績を踏まえて、同じ位になるように計画しました。

副議長) 市域の隣接している地域、自動車文庫が回って奉仕をカバーしていると思われるが、広域利用に伴う自動車文庫の相互利用は考えているか。

事務局) 豊中市では、吹田市の自動車文庫で貸出を受けられないかと考えているようだ。

今後は、そういうことも研究していきたい。

副議長) 大阪市は自動車文庫だけ、別カードにしているようだが、そのあたりはどのようにしているのか。

事務局) 吹田市は自動車文庫も同じカードを使用しているが、貸出期間や冊数は自動車文庫向けに変えています。

委員) 吹田市の貸出件数プラス、広域の分を借りられるのか。

事務局) 吹田と広域利用とは別の扱いとなりますので、借りられます。

(3) 北千里分室の拡充計画について

事務局) 北千里分室は阪急北千里駅前の商業地にあり、現在は地区公民館との複合施設の1階部分の半分を使用しています。面積としても155㎡、座席数も7席しかなく、地元からの拡充要望が出ています。来年度予算(案)で、地区公民館を北千里小学校跡地に移転すの費用を計上しています。予算が承認されれば、今後は、図書室の拡充計画も考えていくことになると思います。

(4) 吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館山田駅前図書館の経過報告について

事務局) 1月14日に建物引渡しがあり、2月1日からこの施設内で開館準備をしています。山田駅前図書館も窓口の一部業務委託を実施する計画で、1月25日にプロポーザルを行ない審査した結果、受託業者は図書館流通センターに決定しました。

(5) 千里図書館の建て替えの経過報告について

事務局) この案件につきましては、7月議会での予算上程ということになり、前回から変化等はありません。

(6) (仮称) 千里丘図書館の経過報告について

事務局) よくある質問・回答集を配布させていただきました。パブリックコメントを含め、地元での意見交換の中で出てきた質問・疑問をまとめたものです。これに基づいて設計を行ない、12月末までに概要が決まりました。外観は表紙のような感じとなります。1月29日に地元で報告会を行ない、来年度当初予算に上程していくとの報告を行いました。概算工事費は約3億4千万円です。東側2階は全面ガラスで明るく、1階部分に駐車場があるので複雑な形になりますが、1階は児童書コーナー、2階を一般書と視聴覚資料のコーナーとする事で、使い勝手のよい図書館にしたいと考えています。特徴としては、全館バリアフリーにするとともに、80㎡の屋上緑化と太陽光発電パネル、散水のための雨水タンクを設置するなど、環境対策に力を入れています。「やさしい」をテーマに、障がい者や子育てに「やさしい」、そして地球にも「やさしい」図書館を目指しています。スケジュールとしましては、7月議会で工事契約の議案を提出し承認をいただければ、8月以降約12か月間ほどを工事期間として予定しています。工事用地は池を埋め立てた土地であるため、工期については変わることもあり得ます。その後、書架の搬入等で約4か月間図書館内部の準備を行います。地元からも期待を寄せられています。

委員) パブリックコメントのことで、コメントを出された方が年齢的に見るとお年寄りが多い。若年層からは出ていないのか。

事務局) ボランティア活動をされている方や、子育て中の若いお母さん方も関心を寄せていただいています。

委員) 中間層が多い。高齢化が進んでくると、お年寄りと、今後を担う年少者の意見が大事かと思う。

事務局) 青少年の声が直接もらえていないのはウィークポイントかもしれない。起伏にとんだ土地柄で、図書館が出来ても、高齢の方は行きにくいという声が自動車文庫の利用者から出ています。自動車文庫駐車場の廃止と絡めての課題だと認識しています。サービス内容についても今後検討していく事になりますが、地域の図書館として機能できるよう、近隣の高齢者施設に出かけて行って、おはなしや紙芝居などを行っていきたいと考えています。

委員) いちばん大事なのは、最初に意見募集したパブリックコメントが基礎になると思う。

副議長) 「住民生活に光をそそぐ交付金」があり、府立ではビジネス支援、電灯のLED化、古文書のデジタル化で申請している。資料費や人件費のような経常経費的な

ものは、交付金にはふさわしくないと考えているが、吹田市ではどのようにしているのか。

事務局) 吹田の図書館としては約 2200 万円を図書の実業として申請しています。政策推進室のとりまとめになるので、図書館の希望がどこまで通るかはまだわかりません。単年度のため、継続して使うものには使いづらいので充実費としています。内訳は駅前図書館の充実で半分、後は各図書館の特色をもった資料の充実で申請しています。

副議長) 交付金自体が、図書館の建設に使えないという規定があったのか。

事務局) 最初に提示された金額が、吹田市で 1500 万。施設建設にあてるような金額ではなかったため、考えませんでした。

議長) 「光の交付金」は「住民生活に光をそそぐ」という趣旨の総務省の補助金。これまで図書館に補助金が出ることはあまりなかったが、そういう性格のものであることを補足します。

委員) 駅前図書館を楽しみにして何度か見に来ているが、子どもが津雲台側から建物のある山田側に来るにはどうしたらよいのでしょうか。自転車などでは、ぐるっと回らないと来られないということですね。

事務局) 地下道はないので、少し遠回りになるようです。

3 今後の図書館施設整備やサービス展開の方向性について

議長) 前回の会議で、図書館協議会から図書館サービスについて何かまとめて提言できたら、という提案をさせていただき、今日は資料を作らせていただいた。これまでの図書館を取り巻く状況、吹田市の図書館の経緯などをまとめた。図書館協議会では平成 16 年に諮問を受け、翌年答申を出した。その中で図書館への要望をしてきた。平成 19 年、答申後の経過報告についての議論を行ない、意見や要望を出した。答申後の経過報告について、平成 19 年から現在までの図書館のサービス内容や充実ぶりの報告をしていただきたい。

事務局) 答申に対して、図書館がどこまで答えられたかの報告を 19 年に行なった。それ以降の動きについて報告させていただきます。平成 19 年 3 月に吹田市子ども読書推進計画を作成しました。7 月には新着図書おしらせサービスやメールマガジンを開始しました。10 月に祝日開館（月曜を除く）を実施しました。12 月には南吹田に自動車文庫の新しい駐車場所を設置しました。南吹田には以前は巡回していましたが、駐車場所が個人のモータープールであり、一旦廃止の後、新たに場所提供を受けての巡回です。平成 20 年 11 月には、中央図書館に漫画コーナーを設置しまして、児童コーナーではなく大人のコーナーに設置し、かなりの利用があります。又、「市民が選ぶ子どもたちに読ませたい 100 冊の本」の取り組みを行ない、平成 21 年 3 月に選定終了し、夏休み前に各図書館・学校図書館に設置しまし

た。7月には市庁舎ロビーでの展示なども行いました。また毎日開館実施に向けて「夏休み子ども開放日」を実施しました。10月に休館して電算システムの更新を行ない、11月から、インターネットでの貸出延長機能を追加するとともに、検索のスピードアップやセキュリティの対策の強化を図りました。平成22年1月からは毎日開館を開始しました。月曜開館も少しずつ浸透して、利用者からは喜ばれています。同12月に千里山・佐井寺図書館での窓口業務の一部業務委託を行いました。平成23年1月に視聴覚資料の予約制度を実施するとともに、貸出期間の統一と貸出点数、予約点数を変更してサービス向上を目指しています。同年2月になりますと吹田市・豊中市の広域利用の協定を結び、同3月には駅前図書館をオープンすることになります。

議長) 報告のとおり、図書館も社会の変化や住民の要望に対応してサービス充実してきたことがわかります。一方で、利用者の立場から各委員のみなさんにも要望があると思う。配布資料のように、図書館はさまざまなサービスをするところである。充実している部分と不足部分とがある。各委員の立場から、吹田の図書館をよりよくするためにどんなことをしていけばいいのかを話し合っていきたいと思う。図書館でこんなサービスがあるといいな、という提案をしてほしい。

委員) 要するにこの場で、サービスについての話をして、まとめたものを図書館側に提案するということですね

議長) そういうことです。

委員) それに対して、図書館側に応えてもらうという事によろしいですか。

議長) 長期的なスパンで見るとそういうことです。

事務局) 図書館側では、図書館施設、ハードの部分で未設置地域を含む整備案を、5月の協議会で提示していきたいと考えていまして。それとは別に、サービス内容についても、ご議論をいただいて意見を頂戴し、その後の館内検討事項であるソフト面での計画に反映していけたらと考えています。

委員) よいことだと思います。

委員) 1月30日に吹田の図書館をよくする会で渡邊先生に講演していただいた。「デジタル社会と吹田の図書館の未来像」のテーマですばらしいお話だった。デジタルといっても、今すぐ図書館でできるようなこともあり、今後の協議会の中で渡邊先生に1時間ぐらいお話していただけたらと思う。

議長) 従来の図書館サービスを尊重しつつ、プラス、それではできない部分をデジタルでどう展開していくか。たとえば、本を読んでほかの人の感想を聞きたいと思ったとき、従来なら図書館の読書クラブのようなものがあつたが、ツイッターなどを使えば個人の情報発信・情報交換ができる。図書館になかなか来られなくても、インターネットがあればできることもある。それぞれの立場から、どういったあり方が良いのか意見を出してもらったり、図書館と社会問題とのかかわり方

などについての意見を出していただいて、まとめられたらと思っている。それによって、吹田市独自の良いところが出せれば。

副議長) 委員の方それぞれに、いろいろ知っていることがあり、いろいろな視点がある。お互いに勉強し合って、少しずつでも毎回発表をしていただいたり、それぞれの立場でサービス提案をしていただけたら良いと思う。

委員) 良いと思います。この一年、座って聞いているだけだったが、たとえば、私は学校と図書館の連携について考えたいが、IT と絡めて考えていくヒントをいただいた。

議長) 賛同いただけたということで、よろしくお願いします。事務局と協議して、今後の課題としたいと思います。

4 その他

(1) 次回の日程について

事務局) 平成23年度の開催は5月、9月、11月の予定です。前年は9月は視察だったが、今年はない年です。

議長) 調整後、のちほどご連絡を行うということでお願いします。

事務局) 5月は、水曜日で調整させていただきます。

(2) その他

事務局) 「図書館講座じゅずつなぎ」の報告を資料として配布している。今年のご希望などあれば、意見を頂戴したいと思います。また、委員から追加の配布資料が3枚ありますので、ご説明をお願いします。

副議長) 府立図書館の宣伝になるが、12月にインターネットで一般の方からも質問を受けるサービスの実用化が始まった。府立の館長が朝日新聞に投書して、記事に取り上げられた。受益者負担でビジネス支援のセミナーを開催した。次年度は、業界新聞の収集400誌(98%が寄贈)という他の都道府県立図書館でも類のないコレクションを使い、交付金での展示フェアを考えている。